学図研・東京支部 2025 年度活動報告

2026 年 6 月 27 日

【支部会】

2025 年度の東京支部在籍会員数は 68 名であった。

支部会は基本的に対面とオンラインを併用して開催した。2025 年度の全国大会を東京支部が担当したこともあり、年度の前半は全国大会の準備が内容の大きな割合を占めることになった。

総会は 6 月 22 日に神田女学園で行われた。2024 年度活動報告と会計報告、2025 年度活動方針と予算が賛成多数で承認された。会則について検討を行い、会計年度を 6 月 1 日から翌年 5 月末までにすること、役員名簿に会計を記載すること、役員の任期を支部の年度に合わせるという修正が行われた。

その後の 6 月支部会では、全国大会運営についての検討をし、会場校の施設・設備を確認した。

7 月は 13 日と 27 日の 2 回、支部会（神田女学園）を実施した。13 日は全国大会の係に分かれ、1 日かけて運営の準備を行った。27 日は本番のリハーサルを行い、全国大会の最終確認をした。

8 月支部会は、全国大会を運営したため実施しなかった。 例年、8 月は支部会を行っていない。

9 月支部会（神田女学園）では全国大会の振り返りと次年度大会への申し送り事項の検討を行った。

10 月支部会（青山学院大学）は拡大支部会として開催した。2025 年 6 月に IFLA が公開した「IFLA-UNESCO 学校図書館宣言 2025」日本語版について、翻訳を担当した岩崎れいさん（京都ノートルダム女子大学）と庭井史絵さん（青山学院大学）のお二人から解説をしてもらった。その後、青山学院大学図書館と「つくまなラボ」の見学も行うなど盛りだくさんの内容であった。

11 月支部会（東洋英和女学院）では、支部会員の小田垣宏和さんがファシリテーターを務めて「図書委員のためのペルソナ・ワークショップ」を行った。ペルソナ（仮想顧客）を想定して学校図書館のサービスのアイデアを考えることで、より訴求力の強いイベントづくりができるということを体験した。ワークショップの方法は 12 月支部会報に書かれている。

12 月支部会（玉川聖学院）は『がくと』40 号発送作業を主に行った。

1 月支部会（玉川聖学院）は拡大支部会とし、「ベッシー・ヘッド『雨雲の集まるとき』翻訳出版と本と出会うこと」という題で、南アフリカ文学の『雨雲の集まるとき』を翻訳された横山仁美さんから話をうかがった。

2 月支部会（玉川聖学院）では、東京支部が担当する 2026 年度全国大会（山陰大会）の分科会のテーマである「生成 AI」について、支部会員の小田垣さんが行っている社会人向け生成 AI ワークショップを全員で体験した。イベントの企画作成まで体験することができ、生成 AI への理解が深まった。

3 月支部会（玉川聖学院）では、引き続き全国大会分科会準備も兼ねて、南多摩中等教育学校の千田つばささんが行った中 1 向けワークショップを実演してもらった。その後、朝井リョウの『イン・ザ・メガチャーチ』の読書会を行い、楽しい時間を持つことができた。

4 月支部会（玉川聖学院）では、支部会前に東京都公立小・中学校司書配置状況調査の発送作業を行った。その後「『海外文学』について語ろう！」と題して 2024 年～2026 年にかけて刊行されたおすすめの海外文学作品の紹介を行った。

5 月支部会（神田女学園）では 2026 年度の「私たちの課題」の検討と支部運営の課題の討議をした。その後、日々の質問「こんなこと聞いてみたい」で日常業務の課題について話し合った。

【全国大会】

2025 年度、第 40 回全国大会は東京支部が担当し、2025 年 8 月 2 日～4 日にかけて神田女学園中学校高等学校を会場として開催した。総会はオンライン併用、実践報告と分科会の一部はアーカイブでの配信も行った。参加者は現地参加が 392 名、アーカイブ配信の申込みが 231 名であった。会場として学校を借用することができたこと、会場の立地が良かったこと、参加者が多かったこともあり、大会会計は大幅な黒字で運営することができた。黒字分については、一部を支部に残し、残額を学図研全国に支出し、今後の全国大会運営の原資としてもらうことにした。出版社や図書館用品店など 9 つの東京ならではの多彩なオプショナルツアーを行い、どれも大変に好評であった。全国大会は東京支部の総力を挙げて準備を行ったこともあり、好評のうちに無事に大会を運営することができた。

東京支部は 2 つの分科会を担当した。1 つ目は「堤未果氏に聞く日本の社会のこれからと学校教育・学校図書館」、2 つ目は「もっと！YA 海外文学！！」であった。堤さんの講演会はホールで行い、講演の後には参加者間で話し合いの時間を持った。海外文学の分科会では、ゲストに金原瑞人さんと三辺律子さんをお招きし、海外文学について参加者全員で楽しく語り合うことができた。

2026 年度の第 41 回全国大会（山陰大会）は 8 月 6 日～8 日にかけて、鳥取県米子市で開催される予定になっている。講演は公立はこだて未来大学の美馬のゆりさんをゲストに迎え、「AI 時代における学校図書館の役割と可能性」という題で話してもらう。東京支部が担当する分科会は「生成 AI とどう向

き合う？」と題して、西武文理中学・高等学校国語科教諭の笠原諭さんから教科での生成 AI の取り組みの実践をお聞きし、ワークショップも行う予定である。生成 AI 初心者も学べる機会としたい。

【役員体制】

支部代表は杉山和芳さん。

支部ニュース編集委員は、橋本愛里さん、千田つばささん、渡邊有里子さん、植田亜里沙さんの４名が担当して月１回発行された。月例支部会の報告、輪番を基本とした会員の執筆原稿が発信され、会員の実践や動向を知る充実した内容になっている。

会計は宅間由美子さんが担当、二井依里奈さんは会計監査となった。印刷発送・メーリングリスト担当は前田紀子さん、ホームページは佐々木愛さん、Facebook 担当として青野由美さんが担当した。

全国一般会計を谷口裕美子さん、全国委員は鳴川浩子さんと清水紀子さんが担当した。

全国大会東京大会は、実行委員長を杉山和芳さん、大会事務局長を佐藤敏子さん、大会会計を宅間由美子さんが担当した。

【学校司書配置状況調査】

調査チームによる取り組みを継続して行っている。今年度は上田暁子さん、歌川美歌さん、大浦和子さん、大澤倫子さん、岡田貴子さん、田中美智子さん、安田彩子さんが調査チームのメンバーとなって調査を行った。各教育委員会への電話連絡係として大口和枝さん、菊池保夫さんに、入力と助言で鈴木久美子さんに支援をしてもらった。結果は学図研・東京支部のホームページで公開した。

【その他】

７月から８月にかけて、第１２回「東京・学校図書館スタンプラリー」が開催され、会員の勤務校が複数参加した。

他団体との連携として「東京の図書館をもっとよくする会」の世話人に菊池保夫さんを派遣した。

（文責 杉山和芳）